

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの保健 I A			17642	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
外村 晴美	選択	2				

授業の到達目標

保育現場では疾病や障害を抱えた多様な子どもも入所しており、子どもの保健・安全の領域が重視されている。心身の健やかな成長を見守り援助していくために、子どもの特性を把握し、発育・発達についての知識を習得することが大切である。さらに、子どもを取り巻く家庭や社会環境などにも目を向け総合的に判断し、対応できる力量を形成する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）を考える。

授業の概要

命の誕生から身体の発育・生理機能・運動機能・精神機能についての知識を習得し、子どもの心身の健康増進を図るための保健活動の意義や、子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について学ぶ。また、子どもの疾病の特徴を知り、その予防とその対応について学ぶ。さらに子どもの心の健康とその課題について家庭・専門機関・地域との連携についても学ぶ。

授業計画

- 1.子どもの健康と保育の意義①生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的
- 2.こどもの健康と保育の意義②子どもの健康概念と健康指標
- 3.こどもの健康と保育の意義③地域における保健活動と児童虐待
- 4.子どもの発育・発達①生物としてのヒトの成り立ち
- 5.子どもの発育・発達②身体発育
- 6.子どもの発育・発達③生理機能の発達
- 7.子どもの発育・発達④生理機能の発達
- 8.子どもの発育・発達⑤運動機能の発達
- 9.子どもの発育・発達⑥運動機能の発達
- 10.子どもの発育・発達⑦精神機能の発達
- 11.子どもの発育・発達⑧精神機能の発達
- 12.子どもの精神保健①子どもの生活環境と精神保健
- 13.子どもの精神保健②子どもの心の健康とその課題
- 14.環境および衛生管理並びに安全管理①保育環境整備と保健
- 15.環境および衛生管理並びに安全管理②保育現場における衛生管理
まとめ
終講試験

授業の方法

主に講義形式で進める。ディスカッションやグループワークや発表も取り入れる。視聴覚教材等も使用する。

準備学修

日頃から子どもの発育・発達に関心をもつ。感染症の発症や流行に関する情報を身近なこととして捉える。事前に必ずテキストは熟読しておくこと。また、事前課題を提示するため、当日までに完成させておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%
レポート等の提出期限を守らない場合は減点対象とする。また、講義中の居眠り、雑談、不必要なスマホ操作なども減点対象とする。

欠席について

欠席は減点対象とする。1回欠席につき2点減点とする。

テキスト

子どもの保健 I 佐藤益子編著ななみ書房

参考図書

国民衛生の動向（財）厚生統計編

留意事項

レポートの提出について未提出の場合は加算0点。
グループワークや発表への取り組み姿勢も評価対象とする。
欠席は1回につき2点減点とする。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの保健			17643	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
狐塚 善樹	選択	2	小児科医（日本小児科学会小児科専門医）			

授業の到達目標

小児科医は「子どもの総合診療医」、「育児・健康支援者」、「子どもの代弁者」などとされており、子どもの疾病だけでなく、子どもの健全な発育を総合的に支援することが必要とされている。これらことは小児科医に限られたことではなく、子どもに専門的に関わる者に置き換えても共通する部分が多い。子どもの特徴、成長発達、病気の経過、子どもを取り巻く環境の理解などを深める必要がある。そのために以下の項目を理解する。

- 1.子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
- 2.子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。
- 3.子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。
- 4.子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。

このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を目指す。

授業の概要

子どもは大人のミニチュアではないと言われる。子どもを理解する上で総論的な観点から、共通認識としての用語の定義、生物としてのヒト及びその生理、現在の社会環境及び社会制度（統計、各種子育て支援など）、体・情緒のwell-being、それらへの関わり方や役割などを理解する。それらを基礎として各論に進む。子どもの発達は発育段階で異なりと共に、身体発育と生理機能発達、運動機能発達、心の発達が互いに関係し合っている。これらの発達は理論的に説明できることもあり、丸暗記ではない実際に役立つしっかりとした責任ある知識を身につける必要がある。このいわゆる正常発達知識に基づいて現在の子どもの健康状態を把握する。子どもの疾患の病態生理、特徴を理解して、その予防（予防接種、感染対策など）、対応（初期対応、事後対応など）を理解する。以上の知識に基づいて、ある時にある子どもをみて、今の状態がどうか、何が必要かを適切に対応でき、また保護者に説明できることを学ぶ。

授業計画

- 1.子どもの健康と保健の意義 (1)生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的
- 2.子どもの健康と保健の意義 (2)健康の概念と健康指標
- 3.子どもの健康と保健の意義 (3)現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
- 4.子どもの健康と保健の意義 (4)地域における保健活動と児童虐待防止

- 5.子どもの身体発育と生理機能の発達 (1)身体発育と保健
- 6.子どもの身体発育と生理機能の発達 (2)生理機能の発達と保健
- 7.子どもの健康状態の把握 (1)健康状態の観察
- 8.子どもの健康状態の把握 (2)体調不良等の早期発見
- 9.子どもの健康状態の把握 (3)発育・発達の把握と健康診断(I)
- 10.子どもの健康状態の把握 (3)発育・発達の把握と健康診断(II)
- 11.子どもの健康状態の把握 (4)保護者との情報共有
- 12.子どもの疾病の予防及び適切な対応 (1)主な疾病の特徴(I)
- 13.子どもの疾病の予防及び適切な対応 (1)主な疾病の特徴(II)
- 14.子どもの疾病の予防及び適切な対応 (2)子どもの疾病の予防と適切な対応(I)
- 15.子どもの疾病の予防及び適切な対応 (2)子どもの疾病の予防と適切な対応(II)

授業の方法

スライド講義を中心とする。配布資料、参考資料を用い、症例検討も行う。新聞、ネットなどの子どもに関する情報（感染、制度、社会問題など）は常にチェックしておく。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

- ①課題
講義内容のまとめ、提示課題、症例検討のレポートの提出（全3回以上）を求め、講義の中でフィードバックを行う。
- ②評価方法について、
平常点30%、定期試験70%

欠席について

講義は前回の内容を理解している事を前提に進めて行くので、連続性が必要で、欠席は減点対象とする。但し、一般的に出席停止（インフルエンザなど）となるものは欠席としない。欠席は3点減点、遅刻は1点減点。

テキスト

テキストは特定の本は指定しない。基本的には講義内容と配布資料とする。
参考図書としては、子どもの保健 I 佐藤益子／中根淳子編著 ななみ書房、子どもの健康と安全 「最新 保育士養成講座」 総括編集委員会／編 全国社会福祉協議会